

田中双鶴の書業

87歳筆（絶筆）



四国大学の講義室にて

書道特別展

書家・教育者・研究者 田中双鶴の書業

2016年10月1日(土)~11月13日(日)

徳島県立文学書道館 特別展示室・書道美術常設展示室

休館日 月曜日。ただし10月10日(月・祝)は開館し、翌11日(火)は休館。

開館時間 9:30~17:00

座談会・作品解説 10月9日(日) 14:00~15:30

講師 森岡清流 氏 (元徳島県小中学校書写教育研究会会長)
中尾勝子 氏 (書研社会長)
富久鳴泉 氏 (四国大学名誉教授)

*座談会・作品解説のお申し込み方法
往復ハガキ(1人1枚)に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号、
「田中双鶴の書業 座談会・作品解説」希望とご記入の上、郵送して
ください。当館1階受付でもお申し込みいただけます。

観覧料 (常設展もご覧いただけます)

一般 510円(400円) / 高校・大学生 350円(280円)
小・中学生 250円(200円) / () 内は20名以上の団体割引料金。
小・中・高校生は、土・日・祝日・秋休み期間中は無料です。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額です。

主催 徳島県立文学書道館
後援 徳島県教育委員会 徳島新聞社 四国放送
第18回徳島県民文化祭共催事業



言の葉ミュージアム 徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
電話088-625-7485 FAX088-625-7540 <http://www.bungakushodo.jp>

戦後間もない1948年、徳島で月刊
 競書誌「鳥跡」が創刊されました。創刊
 者は田中双鶴（1912〜2000年。現・徳
 島県阿波市市場町生まれ）。以後、鳥跡は53
 年間にわたり発行され、子どもから大人
 まで多くの人が購読し、書写書道の発展、
 向上に大きく寄与しました。

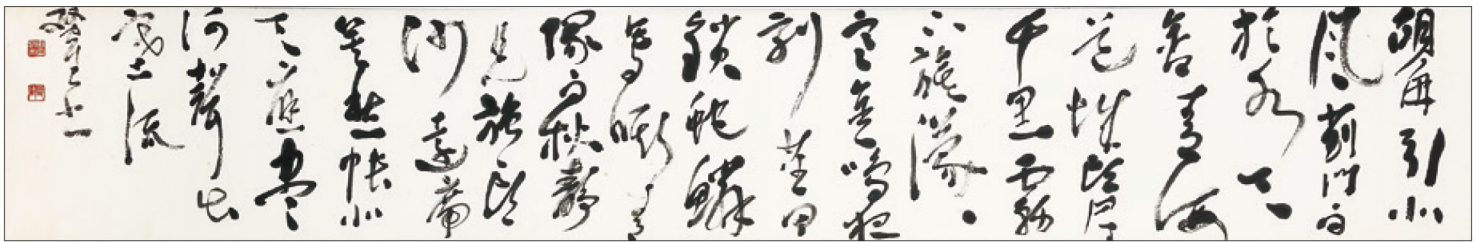
田中双鶴は鳥跡誌発行のほか、生涯に
 わたつて徳島大学や四国大学などで教鞭
 を執り、書写書道教育や教員養成に情熱
 を注ぎました。

また、多くの書道教育関係の著書のほ
 か、徳島ゆかりの書家・貫名菘翁をはじめ
 柴秋邨、閑々子を研究し著書を発行、
 研究者として知られています。

さらに、徳島県美術展（県展）の書道部
 門創設に尽力し、審査や運営に当たるな
 ど戦後の県書壇を牽引しました。

書家としては、漢字と仮名の両立を目
 指して、漢字を津金雀仙・小坂奇石に、
 仮名を尾上柴舟・大石隆子に師事し独自
 の書を追求、叙情あふれる格調高い作品
 を残しました。

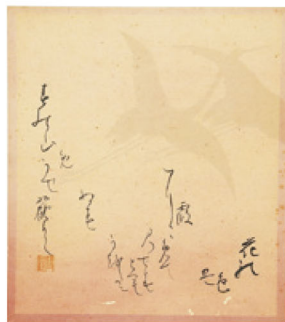
本展では、書家・教育者・研究者とし
 て生きた田中双鶴の書作品約50点や関連
 資料を展示し、書と業績を回顧します。



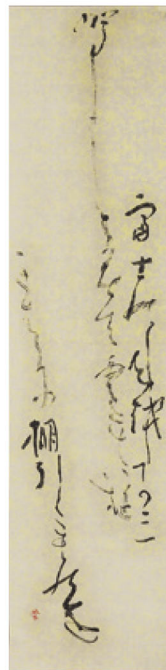
「李賀詩」一巻 47歳筆（当館蔵）



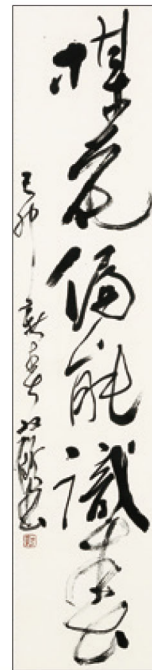
「鳥跡」小学3年課題手本
 半紙 1958年 45歳



「良岑宗貞歌」色紙
 64歳筆（個人蔵）



「高橋虫麻呂歌」一幅 84歳筆（当館蔵）



「梅花偏能識春」一幅 86歳筆（当館蔵）



「人中龍」一幅 63歳筆（個人蔵）



「鳥跡」最終号
 2000年4月



研究書『柴秋邨精説』
 『貫名菘翁精説』
 『閑々子の世界』



交通アクセス（JR徳島駅から）

徒歩 約15分
 JR徳島駅西側のポッポ街を抜け右折します。
 踏切と助任川を渡り、3つめの信号交差点を右折し
 約300m。徳島中学校東隣。

バス
 〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線（右回り）」
 に乗車し「吉野本町2丁目」下車、徒歩約5分。
 〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に乗車し
 「吉野本町2丁目」で下車、徒歩約5分。

タクシー・自動車 約5分
 国道192号線、藍場町交差点を北進、助任川を渡り
 4つめの信号を右折し約300m。
 当館北側に駐車場があります（43台・大型バス2台）。

展示のお知らせ

- ◆開催中～9/28
 書道企画展 夏の書道収蔵品展 中林梧竹の楷書
- ◆11/15～2017年2/12
 秋・冬の書道収蔵品展 新収蔵の書Ⅱ
- ◆12/3～15
 書道企画展 第1回 書道創作グランプリ
- ◆12/14～27
 書道企画展 「今年の一文字」展 2016
 作品募集 11/5～30
- ◆2017年2/16～3/20
 書道特別展 あふれる心情 曾津八一の書